

宮城県山元町と災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式および記念講演会を開催しました（2013/12/24）

テーマ：包括的連携と相互の協力

会場：山元町中央公民館大ホール

12月24日（月）、山元町中央公民館大ホールにおいて、山元町と東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式が開催されました。山元町は、東日本大震災により多くの尊い命が失われるとともに生活に不可欠なライフラインや公共交通機関、水田、いちご畑、漁港などの産業基盤にも壊滅的な被害を受け、また震災前から人口減少・少子高齢化・にぎわいの創出などの課題を抱えており、復興との同時解決のため、新しい視点でのまちづくりが求められています。そのような状況の中、町民一人ひとりが主体となり、「チーム山元」として心をひとつに、復興と更なる発展のために総力を結集、協働し取り組んでいます。

災害科学国際研究所からは多くの構成員が、有識者委員やアドバイザーとして震災復興計画やまちづくり検討の場に参加し、また津波被害の特に大きかった浜通り地区を中心とする避難実態の調査や避難訓練の実施をはじめ、山元町の復興まちづくりや防災・減災に関する様々な取り組みに連携・協力してきました。

こうした互いの取組や課題がある中で、東日本大震災による被災からの復興まちづくりや防災・減災対策を効果的、そして実践的に進めていくことに関して、山元町と東北大学災害科学国際研究所との思いが一致したことから、今後、互いに連携して、これらを活発化させる礎とするよう、本協定の締結を行うことになりました。締結式には、齋藤俊夫 山元町長、平川新 災害科学国際研究所長の他、山元町から阿部均 議長、門脇克行 副町長、森憲一 教育長、ほか山元町執行部の島田忠哉氏、高橋寿久氏、佐藤兵吉氏など、当研究所から今村文彦 副所長、源栄正人 教授、小野田泰明 教授、ほか阿部昭 事務長、小野裕一 教授、久利美和 講師、金進英 助教、池田菜穂 助教、保田真理 助手、安倍祥 助手が出席しました。協定についての説明の後、「山元町と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定書」に、齋藤町長と平川所長が署名し協定が締結されました。

締結式において、齋藤町長から東日本大震災前からの協力に対して当研究所への感謝の言葉をいただくとともに、災害に強いまちづくり、将来の発展に向けた強い決意が語られました。また平川所長は当研究所の発足について説明し、多くの分野にわたる研究成果・情報の提供と協力による更なる連携の強化を約束しました。

締結式の後、災害リスク研究部門 津波工学研究分野の今村教授が、「東日本大震災における教訓と課題 ～津波避難の取り組みに向けて～」と題して講演を行い、町民を含むおよそ120名が参加しました。講演会において今村教授は、東日本大震災の地震・津波のメカニズムと、観測された津波のデータやシミュレーション結果、そして今年8月31日に山元町で実施された自動車も活用した津波避難訓練の取組と課題について話題提供しました。その中で、自動車をを用いた避難は、遠方にある高台への避難やその支援の手段として有効ながら、途中で道路の被害や交通渋滞等に巻き込まれる可能性もあり、リスクを伴う手段であることも解説しました。そして「3・11を忘れない」ためには、震災当時の状況を整理・記録し、伝えることが大切であると訴えました。また、当研究所が今年8月の避難訓練の分析結果から課題を抽出したように、今後も地域の取組みだけでは見えない情報を当研究所から提供するとともに、震災当時の避難の体験談なども含め、伝えたいメッセージ・地図・データなどにまとめ、今後の課題や解決策に関わる情報として町民と共有していくことを提案しました。



協定締結式



協定締結式



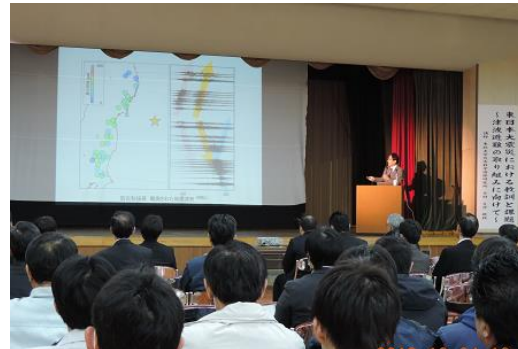
記念撮影



記念撮影



講演する今村教授



講演会の様子

文責：池田菜穂（情報管理・社会連携部門）
安倍 祥（寄附研究部門）
鈴木通江（情報管理・社会連携部門 広報担当）